

愛知の博物館

1970年 No. 17



第2回あいちの博物館展寸景

愛知県博物館協会

目 次

「あいの博物館展」をかえりみて	岸 田 幸 子	1
第 1 回学芸職員研修会報告	田 中 立 子	2
第 2 回学芸職員研修会報告	広瀬 鎮	3
荒木集成館紹介	荒木 実	4
伊良湖ビジターセンター紹介	小久保 忠 昭	5
昭和 45 年度事業報告		6
昭和 45 年度決算書		7
昭和 46 年度事業計画(案)		9
昭和 46 年度予算(案)		9

「あいちの博物館展」をかえりみて

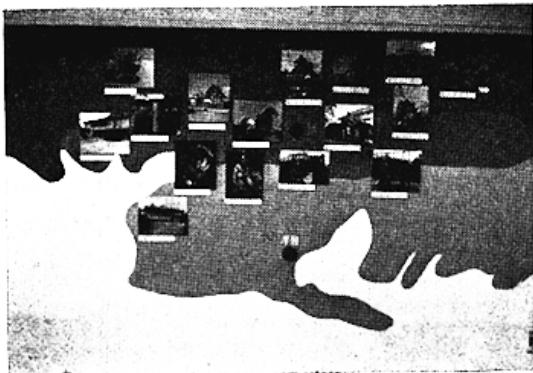
岸 田 幸 子

「第2回あいちの博物館展」は、昭和45年10月9日から14日までの6日間、名鉄メルサの6階連絡通路で開催されました。愛知県文化会館は、年度当初の理事会の決定によりこの展覧会の実施担当館とされましたので、その事務担当者として、この展覧会開催までの経過や感想などを簡単に述べ、今後の参考に供したいと思います。

まず会場ですが、6月11日の理事会の席上、名鉄メルサなどはどうかという声が出て、熊沢会長も賛成され、事務局で交渉することになりました。そこで事務局では早速メルサを訪問し、借用を申し出ましたが、正式決定までに意外に日時がかかり、9月末になってようやく借りることができました。

この展覧会の実行委員は、協会の各理事館と豊橋向山天文台とに依頼してありましたので、9月2日に実行委員会を開き協議した結果、次のようなことを決定しました。

1. この展覧会は“博物館の周知普及をはかり、その利用を促進する”ことを目標とする全国博物館週間（10月第2週）行事として開催したいので、会期は10月2日～7日または10月8日～13日とする。
2. 会場は、昨年度（会場 市立名古屋科学館）の反省として、なるべく地の利のよい、多くの観覧者を期待できるようなところとして、以前から希望も出ている名鉄メルサ6階連絡通路としたい。
3. 内容は、会場が通路であるため、モノの展示はむずかしいのでパネル展示とする。なお、片側の壁面パネル（長さ33m×高さ2.3m）の長さ20m位×高さ2.2mのスペースに、愛知県地図のデフォルメしたものを描き、協会加盟館園の所在地の位置に加盟館園の写真パネル（4ツ切カラー・



各館の特徴を出したもの）を貼付する。

4. 他にインフォーメーション・コーナーをつくって、各館の案内書・出版物を展示し、また配布用の案内書と協会作成のチラシ「みんなで博物館へ行こう」を並べる。
5. 会期中、名古屋市内の加盟館と実行委員選出館から毎日交替で出す2名の職員が、会場に、つめて観覧者の質問等に答える。
6. 意見箱も用意する。
7. 飾付担当館は日本モンキーセンター附属博物館・豊橋向山天文台とする。

だいたい以上のような方針を決めて準備をすすめましたが、もともと専任の職員のいない、いわば本職以外の片手間の仕事であることに加えて、会場・会場費の問題、展示用写真パネル作成の問題等、相手方の協力を要する事が多く、担当館単独ではすすめないので、——思うようにはなかなか進行しませんでした。また飾付けにしても、勿論、業者に命じて開催前々夜と前日1日からさせたのですが、実地のことになると、いろいろとこまごましたことが出てきたりして随分と手間どりました。

このようにして、まがりなりにも「第2回あいちの博物館展」の開催にこぎつけました

が、会場のメルサの方からは「博物館のイメージを浮かばせる肝心のモノがないのがさびしいですね」と、痛いところをつかれました。これは初めから覚悟はしていましたが、そういわれてみると、矢張り大きな弱点であったのかなアと思わせられました。デパートのことですから通る人の数は勿論少なくはないのですが、果してどれだけの人々が博物館に対する関心をもってくれたか、ということになると少々あやしいという気がしてなりません。たとえば、折角設けた意見箱の中にも殆ど意見らしい意見はなく、二・三パネル展示でなくてモノの展示をのぞむといった声があったにすぎませんでした。デパートなどで、次々にいろいろな展覧会が行なわれている今日のことですから、よほど魅力のあるものにしない限り、観覧者の関心をひくことはむずかし

い、この程度の展覧会を今後続ける意義がほんとうにあるのか、もう一度よく関係者の意見をきいてみる必要があると痛感しました。

愛知県博物館協会の活動も愛知県から補助金を受けて3年目になります。講演会・パネル巡回展・研修会・印刷物の配布等、回を重ねてきていますが、加盟館が美術館・郷土館から水族館、動・植物園、科学館等多種多様であり、その組織も公立、私立大小様々あり、職員の多いところも全然いないところもあり、一つの共同事業を行なうということは非常に困難です。協会のよりよい運営について皆さんにもっと考えていただければと思うとともに、今後一層のご指導ご協力をいただきますようお願いして、報告をおわりやす。

筆者 愛知県文化会館勤務

愛知県博物館協会主催

第一回学芸職員研修会 報告

田中立子

時：昭和45年12月11日
所：豊田市郷土資料館
内容：
1. [見学] 豊田市郷土資料館
2. [発表と討議] 各館における
資料カードについて
・豊田市郷土資料館
・市立名古屋科学館
・日本モンキーセンター附属博
物館
3. [講演] 欧米における科学博
物館
稻月 光氏（市立名古屋科
学館）

参加者：加盟館 4館 11名

豊田市 柏本鉄夫社会教育課長

愛知県博物館協会主催の45年度、第1回学芸職員研修会は、西三河の地にある豊田郷土資料館でおこなわれました。県外にある大

型博物館を訪ねる機会は、時折ありますが、地元の特異な館を訪ることは、なかなかチャンスがないだけに、私達もお互いに、これを機会に、学芸職員が充分に意見を交換できるような話題をもちよるよう、担当館として、この企画をすすめました。

豊田市郷土資料館の歴史は、昭和42年開館といいますから、新しい博物館といえましょう。が、この館の収蔵する矢作川沿岸の地から発掘された豊富な古代遺跡・遺物群は、非常に興味深い資料であり、館を訪れた私達は、その種類や、形の多様さに驚かされます。この館の若い学芸員である田端勉氏は、考古学専攻ですが、活発に豊田市周辺の発掘資料整理、館内展示を行なっておられます。貴重な考古資料をとり扱っている上での整理、登録は、大変な仕事と思われます。そこで、様々な資料カードを開発されておられます

で、この一連のカードを中心としての討議がすすめられました。科学博物館、動物園と、それぞれの領域を異にする館が参加していましたので、個々のカードについての討議は、各館に於ける工夫の跡を見る事ができました。各々、開発されたカード類のチェック・ポイントは、展示にともなう様々な資料に応用する為に利用してゆくことができると思われます。例えば、市立名古屋科学館の展示物保守の為に利用されている「展示品台帳カード」は、私どもの館にあるサルの鳴き声を録音したカセット式テープ・レコーダーその他の機材の保守管理を行なううえに、又、豊田市郷土資料館の「民俗資料収蔵品台帳」も、モンキーセンターに収集展示されているサル関係の文化史資料カード開発のためにそれ活用してゆきたいと思いました。現在、モンキーセンターで利用されている文化史関係の記録カードを登録カードとしてゆくうえでも、カード類の開発は常に他館のものと比較

検討してすすめてゆかねばなりません。記載事項は、少しづつ異なるとしても、学芸員の一つ一つの資料の取扱いに対する熱意は、各館の一枚のカードにも集約されているといえましょう。

午後、科学館の稻月氏より、欧米の博物館を視察された際の報告が行なわれ、氏が主として見学されたヨーロッパとアメリカに於ける理工学博物館の異なった印象について楽しいお話を聞かされました。欧洲大陸における博物館といつても、一国ごとに非常に異なっているようですし、我が国で博物館が果している領域とは、かけ離れた方面でも、博物館が活用されていることがうかがえました。

以上で、研修会の報告は終りますが、この一日の研修会を済ませた私達には、大きな満足感がありました。すべてを学芸職員が企画し、実行し、お互いの経験や、研究成果から協力し合える場があるとゆうことは、協会とゆう組織のうえでも意義深いものと思われます。

筆者 モンキーセンター附属博物館学芸員

愛知県博物館主催

第二回学芸職員研修会の報告

広瀬 鎮

3月20日、昭和45年度愛知県博物館協会第2回学芸員研修会が、常滑市立陶芸研究所で開催されました。

所長さんの御挨拶に統いて沢田由治氏（文化財保護委員）から常滑焼陶芸の真隨について、豊かな氏の御経験からじみ出る有意義な御講演を賜わった。特に今回の研修会出席者が若い学芸職員ばかりであったせいもあって、懇切丁寧に陶芸における贋作について、また常滑焼の日本文化における歴史的意義等についてのお話しがうかがえました。講演終了後は展示室の御案内と解説をして頂きました。力のこもった、そして丹念な御指導を



うけ、一同感銘を受けました。見学後、常滑焼茶碗に参加者めいめい、思い思いの絵付け

を試み興に入りました。これはあとで焼きあげて、お送り下さるとの事で、大変楽しい御配慮でした。

午後は学芸員の研究発表がありました。

I 博物館事務の資料化について……日本モンキーセンター附属博物館の三戸幸久学芸員、II 福岡県直方市の石のサルについて……同上、広瀬鎮学芸員、III 照明について……市立名古屋科学館、三輪克学芸員からの報告と話題提供がなされました。特にIの博物館事務資料の整理・分類をめぐっての報告は参加学芸員の関心を呼び、博物館内における各種記録文書や事業関連文書等の事務処理資料の総合管理方式については、活発な意見がでました。熱田神宮宝物館の太田正弘学芸員から大型封筒による関連資料整理の実状紹介がありましたが、博物館における各種情報の資料化については今後も更に諸検討がなされていくに違いありません。IIについては、直方市周辺の民間信仰にあらわれたモチーフとしてのサルのとりあつかわれ方、石の塔のサルについての現地調査報告で、写真パネルでの紹介がありました。IIIについては、照明のもつ機能と肉体疲労度の相関などについてのデータの紹介があり、人間工学的研究と博物館資料展示との関連について討議がな

されました。照明度の測定をめぐっては、モンキーセンターでの夜行性サルの展示関係の技術員との意見交換があって大変実用的な話題に発展しました。時間がならないくらいに盛沢山の発表会でしたが、参加者も共通の話題の発見の重要さにあらためて気付かされ、研修会を無事終了しました。

あとがき

以上45年度の学芸員研修会は今回をいれて、2回実施されたが、企画担当を日本モンキーセンター附属博物館が引き受けた。文化会館内愛博協事務局にはお世話を頂いた。深く感謝申しあげる。

協会加入館園もふえ、各館の学芸活動も活発になってきた。今後とも展示・教育・資料整理などについての専門研究が、各館相互の交流に支えられて進展することを心から望む次第であるが、各館の学芸職員他の職員の方々が一層交流しあえるような実用的研究、研修企画がたてられることが望まれている。

協会の運営も今後これら学芸職員の意欲的な参画によってあらたな発展が期待されるのではないかろうか。

筆者 日本モンキーセンター附属博物館

—紹 介—

荒木集成館

荒木 実

東山古窯址群の研究

'52年千種区の東山公園を中心とした一帯を自然科学の分野から調査研究していた私に、天が与えて下さった一片の土器より始まった考古学上の東山古窯址群の研究が、今日の日まで私の人生に夢と希望の灯を点し続けることが出来ましたことを神に感謝しております。現在当、集成館に常備展示してある土器、石器合せて56点、まだこれから復原していく

ことによく無限の広がりを持っています。

ミニ博物館の建設

'56年長野県茅野市尖石考古博物館を見学し、創立された官坂英式氏にお会い出来たことは、私にとって一教員であっても熱意があれば博物館は建設し得ると云う可能性の感銘を受けました。それから私の調査は考古学と博物館学が並行して進んできました。先づ'59年現在地（名古屋市千種区大島町2-

83)に自宅を建てましたが、その際博物館を建て得る余有地を残しておきました。土器の復原数と貯金高とをにらみ合せて'69年意を決して博物館建設に踏切りました。構造、構想は全て私の図面通り、'70年10月31日、遂に開館することが出来ました。諸先生方のご支援の賜物と感謝致しております。15年の夢はたとえミニではありますが実現出来、マスコミに大きく報道され、社会の人々より拍手喝采を戴き、人間としての生甲斐を胸一杯に感謝、感激しております。

集成館の運営

名古屋市内博物館は数少ない、社会人の中には私が過去に歩いたように、小さくとも自分の趣味を大切にコツコツと休日を利用して自然科学に、社会科学に研究を重ねておられる尊い人々に、努力の結晶とも云うべき、学術的な収集物を展示する所はあるであろうか、いやあったとしても、一般庶民までまわってくるであろうか、その努力を発表することな



しに埋もれてはしまわないのであるまい、私は何んとしても、これ等の人々に陽のある日のあることを願い、ミニ博物館ではあるが、開放してあげることに致します。見学者もやがては研究を集成され展示発表者になるよう、世の人々に夢と希望を送ることを乞願うものであります。

荒木集成館館長

—紹介—

伊良湖ビズターセンター

小久保 忠昭

伊良湖ビズターセンター

はじめに

波静かな三河湾と、男性的な荒々しさを誇る太平洋とにはさまれ、東西経済圏の交通ルートに位置する、ここ伊良湖岬は、三河湾国定公園の集団施設地域として年々整備が進み、訪れる観光客も年間150万人といわれています。この観光来訪客の便益を図ることを目的に、海陸交通ターミナルとしての伊良湖港観光センターが1970年7月に建設されました。この建物の2階全体を使って、三河湾国定公園の自然景観・人文景観・未来像の生成を展示解説し、公園の正しい利用の方法と、短時間に豊富な知識を提供するための公共施

設「伊良湖ビズターセンター」を設置いたしました。

施設概要

伊良湖ビズターセンターは、展示室・資料室・レクチャーホール・事務室・応接室・ロビー等からなる総面積1,400m²の冷暖房が完備した博物館施設です。

- 展示室には自然人文等の資料約8,000点がアトラクティブに、かつ立体的に展示されています。
- 資料室は、アカデミックな追求をなされる人々のために数多くの資料を収蔵し、閲覧に供しております。
- レクチャーホールは映写設備・放送設備

等を完備し、広く一般の利用に供するとともに特別展示会場にあてています。

展示のメインテーマ——黒潮の道——

渥美半島の自然・人文は黒潮の恵みを受け、豊かな景観を呈しております。この自然と人文とのおりなす軽快なドラマの原動力ともなる黒潮の流れを、メインテーマ“黒潮の道”としました。

展示の内容

海洋性の高い博物館として、黒潮によってくりひろげられるさまざまな事象をアカデミックな興味地点でとらえ、アトラクティブに表現しました。展示資料も最少限にとどめて、より基本的にやさしく解説するために起承転結というテーマの展開方法を採用しました。

起 …… プロローグ・自然

承 …… 産業

転 …… 陸上文化・海上文化

結 …… 未来像

A・プロローグ 黒潮の流れにのって漂える椰子の実と、暖かい浜辺で明かるい日差しを受けていきなく生物のいぶき、明日の発展を象徴するかのように光る、伊良湖燈台の壮大なパノラマです。

B・渥美の自然 黒潮の影響を受けて、常春の三河湾国定公園にあります自然のいろいろ。美しい昆虫・珍しい魚介類・有色藻類など、地学・植物・動物部門について展示がなされています。

C・渥美的産業 ここでは自然と人間の交歓の場として、日本一の花 園芸地帯に花開く、渥美的花を心静かに観察・観賞し、博物館の息苦しくない雰囲気にひたっていただけるようにと、レストラン風に展示しました。

D・渥美的文化 黒潮の流れによって暖かい風土に恵まれてきた渥美半島の随所に点在する縄文・弥生時代の古墳・貝塚や、東大寺瓦古窯跡など多くの遺跡史蹟を始め万葉の歌・芭蕉の句・島崎藤村の

うたなど、民俗や民具もあって渥美の陸上文化が展開されています。



伊良湖ビジャーセンター

E・潮流に挑む船の歴史 幻の舟といわれているボウチ。ウ舟からホーバークラフトに至る特徴ある船舶の歴史、航海の方法、航海に必要な道具や漁具、伊良湖水道における海難記録など、海の知識と海上文化をもっともわかりやすく解説しました。

F・明日の伊良湖 ここはしめくくりの部門として、中部開発センターのプロジェクトチームによる『伊勢湾2,000年』をその題材に選び、興味深く展示するほか、海洋開発の歴史と未来像とを、空想科学的に展示しております。

博物館普及活動

友の会会員や地域の児童・生徒・青年・主婦等のための映画教室・自然科学教室・人文科学教室・講演会・講習会・サマースクール等が開催されます。ビジャーセンターの研究活動が博物館誌・その他の刊行物によって紹介されます。その他に博物館利用者のための公園の正しい利用方法についての指導が、随時及び要請によりフィルムや講話によって行なわれています。

このように伊良湖ビジャーセンターは、三河湾国定公園の公園施設として、また社会の中のいわゆる「私たちの博物館」として、この2つの機能性をもって運営がなされています。

す。新しい形の博物館相当施設として、マン
ネリズムではない、新鮮な要求を求めて、社
会の発展につとめています。

筆者 伊良湖自然科学博物館勤務

昭和45年度事業報告

(1) 研修会の実施

- イ 日 時 昭和45年12月11日
会 場 豊田市郷土資料館
研修課題 「博物館における資料の整理・分類カードについて」
講演演題 「歐米の博物館」
講 師 市立名古屋科学館 技術課長 稲 月 光
参 加 館 加盟4館 11名
- ロ 日 時 昭和46年3月20日
会 場 常滑市陶芸研究所
学芸職員研究発表
「博物館事務資料をめぐって」 日本モンキーセンター附属博物館 三戸 幸久
「福岡県直方市のサルの石像」 日本モンキーセンター附属博物館
学芸部次長 広瀬 鎮
「照明について」 市立名古屋科学館 三輪 克
特別講演 古陶器研究家 沢 田 由 治
参 加 館 加盟館6館 11名

(2) 印刷物の配布

- イ 壁新聞の配布
「愛知県博物館要図」を作成
ロ 「愛知県の博物館」増刷
新加盟2館2頁を追加印刷
ハ 檻報誌の発行
「東西南北」 163.2~164.3
「愛知の博物館」 161.7

(3) 「あいの博物館展」実施

- 日 時 昭和45年10月9日~10月14日
場 所 名鉄メルサ6階連絡通路
参 加 館 加盟館25館

(4) そ の 他

- 総 会 昭和45年4月14日
理 事 会 昭和45年4月14日、昭和45年6月11日
実行委員会 昭和45年8月28日、昭和45年9月2日 実施

昭和45年度決算書

収入の部

費目	当初予算額	補正額	現計予算額	決算額	差過促	摘要
会費	円 37,000	円 4,000	円 41,000	円 41,000	円 0	28館 41口
県費助成金	300,000	0	300,000	300,000	0	
加盟館負担金	223,000	18,000	241,000	241,000	0	
参加者負担金	28,000	△ 28,000	0	0	0	
雑収入	1,180	1,000	2,180	1,727	△ 453	預金利子等
繰越金	23,820	0	23,820	23,820	0	前年度よりの 繰越金
計	613,000	△ 5,000	608,000	607,547	△ 453	

支出の部

費目	当初予算額	補正額	現計予算額	決算額	差引残額	摘要
会議費	円 33,550	△ 3,550	円 30,000	円 25,950	円 4,050	総会1、理事会2実行委員会2回
壁新聞製作費	42,000	110,000	152,000	152,000	0	
県内研修費	15,900	0	15,900	15,175	725	2回
機関誌費	25,600	191,400	217,000	217,080	△ 80	「東西南北」「愛知の博物館」、「愛知県の博物館」
文化財探勝会費	56,000	△ 56,000	0	0	0	
展覧会費	385,000	△ 235,000	150,000	147,900	2,100	「あいちの博物館」
事務費	36,350	△ 6,350	30,000	28,015	1,985	
負担金	10,000	0	10,000	10,000	0	東海博負担金
予備費	8,600	△ 5,500	3,100	1,010	2,090	
計	613,000	△ 5,000	608,000	597,130	10,870	

差引残額 10,417円は46年度へ繰越

昭和46年度事業計画(案)

- (1) 研修会の実施 年2回
博物館関係施設に勤務する職員を対象に行なう技術研修
- (2) 印刷物の配布
① 壁新聞の配布
県下の小・中・高校生に配布 年1回
② 機関誌の発行
「東西南北」 月1回
「愛知の博物館」 年1回
- (3) 「文化財探勝の会」実施 年1回
教職員を対象にし、県下の文化財めぐりを行なう。
- (4) 「あいちの博物館展」開催
加盟館園の周知普及をはかる目的で行なう。
10月の第2週(全国博物館週間)行事として行なう予定。

昭和46年度予算書(案)

収入の部

支出の部

費目	予算額	摘要	費目	予算額	摘要
会 費	39,000 円	28館 39口 2,000円×11館 1,000円×17館	研修会費	15,900 円	講師謝金 10,000円 食糧費 5,000円 通信運搬費 15円×30名 ×2回=900円
県補助金	300,000		印刷物費	65,500	壁新聞印刷費 40,000円 機関誌「東西南北」印刷費 1,000円×12回=12,000円 「愛知の博物館」1,000円 通信運搬費 3,500円
加盟館負担金	84,000	3,000円×28館	「文化財探勝の会」費	56,000	借料及損料 46,000円 食糧費 200円×50名 10,000円
参加者負担金	28,000	研修会 200円×20名×2回 文化財探勝会 500円×40名	「あいちの博物館展」費	240,000	借料及損料 20,000円 印刷製本費 20,000円 消耗品費 10,000円 食糧費 10,000円 総会費 300円×35名 10,500円 役員会費 300円×8名× 4回=9,600円
雑 収 入	1,583	預金利子等	会議費	36,900	
繰 越 金	10,417				

費　目	予 算 額	摘　　要	費　目	予 算 額	摘　　要
	円		事　務　費	36,350	役員会出席旅費 4,200円×4回=16,800円 消耗品費 5,000円 通信運搬費 郵便料 15円×30× 3回=1,350円 電話料 10,000円 旅 費 20,000円
計	463,000		負 担 金	10,000	東海博負担金
			予 備 費	2,350	
			計	463,000	

編 集 後 記

今年度は事業計画のうち、「文化財探勝の会」を除き、展覧会・研修会・印刷物の配布を行ないました。加盟館も本号で紹介の二館が加わり28館となりました。

今後も皆様方の御協力により、愛知県博物館協会の事業をすすめてゆきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

愛知県博物館協会事務局

「愛知の博物館」 No.17

発行日 1970年4月

発行者 愛知県博物館協会

名古屋市東区久屋町8-8

愛知県文化会館内 (電052-971-5511)

編集者 愛知県博物館協会実行委員会